



つ北小だより

つつじが丘北小学校

No. 3

平成27年6月2日
校長 上田 祥市

学校の自然は学びの場

初夏の風に汗ばむ季節となりました。木々の緑も日増しに深くなり、生き物が活発に活動しています。

先週の運動会には、多くの方々のご参観・ご出席をいただき、ありがとうございました。当日は天候にも恵まれ、演技に集中する子供たち一人一人の真剣な表情が観る人に大きな感動を与えたのではないかと思います。また、子供たちにとっては大きな達成感を味わうことのできる素晴らしい機会にもなりました。つつじが丘北小学校の最後にふさわしい思い出深い運動会になりました。また、子供たちの熱中症対策として、今年もハイツ北自治会からテントをお借りしました。撤去の際にはたくさんの地域・保護者の方々からご協力をいただき、無事に終えることができました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

先日、運動会のアンケートを配布させていただきました。ご意見・ご感想をぜひお聞かせください。

学校の自然

校舎増築工事のため、昨年度の3月に学級園の樹木が伐採され、畑も別の場所に移設することになりました。四季折々、季節ごとに咲いていた花々も西門周辺の花壇以外は一時見られなくなりました。理科の学習でモンシロチョウの成長を観察することになっていた3年生の子供たちは、キャベツにモンシロチョウが飛来する日を心待ちにしていました。しかし、待てど暮らせどモンシロチョウはまったくやってきません。今年は学校の自然環境が少し変わってしまったことがチョウの飛来に影響を与えてしまったのかと思っていました。5月も下旬の運動会全校練習の最中、

副校長 大友 基裕
1匹のモンシロチョウがキャベツの葉に接近しては離れるという行動を何度か繰り返しているのを発見しました。案の定、キャベツにはモンシロチョウのたまごがついていました。このことを3年生に話すととても嬉しそうにしていました。また、1・2年生は、一人一鉢で植物を栽培しています。種子から育てるので、毎日水やりを欠かさず行い、自分だけのアサガオやミニトマトを大事に育てます。土の中から芽が顔を出した時の喜びはひとしおです。

栽培・飼育は心を育てる

生活科や理科の学習の一環として、学年ごとに植物の栽培や動物の飼育を行っています。1年生はアサガオ、2年生はミニトマトやナス、そして3年生はホウセンカやピーマン、ワタ、ヒマワリそしてキャベツ、4年生はヘチマ、5年生がインゲン、ツルレイシ、6年生がジャガイモです。これらの植物を栽培するのは、種子から芽が出て、花が咲き実をつけるまでの一連の生長の様子を観察したり、植物のからだのしくみや特性を探ったりするという教科のねらいに即した理由があります。しかし、栽培や飼育を通して学べることはそれだけではありません。自然に生息する生き物すべてのつながりや多様性、適応性を学ぶことは、日々の世話や観察から生き物の命を実感し、対象物に対する愛着心や責任感が命の尊さへの理解につながっていきます。

6月は、各学年で遠足や社会科見学、移動教室等が実施されます。様々な生き物のつながりや命に直接触れることのできる貴重な体験の場です。

今後も子供たちの感情や感覚を大切にし、心の成長を見守っていききたいと思います。